

2022 年度国内奨学応募生講演会

<酵母に学ぶエピジェネティクス>

2023 年 2 月 11 日（土、祝）13：30～15：00 ズーム開催による表記講演会を行いました。



中村凜子さんは福岡市出身、九州大学農学部生物資源環境学科卒業、2020 年に総合研究大学院大学生命科学研究科に入学、愛知県岡崎市にある基礎生物学研究所に所属し、博士号取得を目指して遺伝子の基礎研究を行っている博士課程 3 年生です。

この総合研究大学院大学（長谷川真理子学長）は学部制ではなく、5 年一貫性の博士課程（3 年次編入も可能）を設置、本部は神奈川にありますが研究所は各地に分散していることを知りました。立派な研究棟に先端的機器類が整備され、中村さんは良き師、良き仲間めぐまれ、生き生きと研究に励んでいる様子が動画や映像により紹介されました。

「エピジェネティクス」とは聞きなれない分野ですが、遺伝子 DNA だけでは説明がつかない遺伝子の制御について研究する学問です。「エピ」はギリシャ語で「超える」という意味ですから、エピジェネティクスは、DNA の解析（ジェネティクス）を超える生命現象を科学的に解明しようとするもので、たとえば同じ遺伝子をもつ双子でも、からだの造りや行動に個性があるのはなぜか、その不思議を解き明かそうとしています。



中村さんの研究により、特別な酵素が化学反応を引き起こし DNA に作用しているメカニズムの一端がわかってきました。生命の誕生、宇宙の神秘にまで思いを馳せながら、参加者 22 名共々に「分かりやすい、行き届いた」説明をうかがい、質疑応答も弾みました。

生命科学の分野を牽引する研究を展開しながら「後進の育成に尽力する研究者を使命としたい」との高い志をもつ中村凜子さんの基礎研究が、ゆたかな実を結び、後につづく研究者のロールモデルとして活躍されますよう心から願ってやみません。（驚見）

<<事後アンケートから>>

- * 私と研究分野は異なりますが、DNA のオン・オフが後天的に（周囲の環境による影響等で）変わらうという話は、社会学がかって行った「優生学」に繋がる議論であったり、今も障害者・障害児の教育分野で行われているような議論にも影響すると刺激を受けました。
- * 中村凜子さんの自己紹介から、中村さんがどのような経緯でこの研究の道を選ばれたか、また、実験の多い基礎学問を女性として続けていかれる情熱と可能性を知ることができ、今後「理系女」のロールモデルとして大変期待できる方だと思いました。

講演会は無事好評のうちに終了しました。快く講師をお引き受けくださった中村凜子様、運営にご助力をいただいた支部内外の方々、そして 20 余名の参加者の皆様に改めて感謝を申し上げます。